

平成 18 年 11 月 9 日

在タジキスタン共和国日本国大使館
臨時代理大使 高橋博史殿

特定非営利活動法人 難民を助ける会
理事長 柳瀬(吹浦) 房子
(代)ドゥシャンベ事務所
プロジェクトコーディネーター 沼田 恭男

日本NGO支援無償資金協力
事業完了報告書

平成 18 年 2 月 20 日付日本 NGO 支援無償資金協力贈与契約に基づく「ジルガタル郡・タジカバード郡障害者連盟強化支援プロジェクト」(実施国：タジキスタン共和国)が、平成 18 年 9 月 19 日をもって完了しましたので、関係書類を添え下記の通り報告します。

記

1. 事業の実施期間：平成 18 年 2 月 20 日ー平成 18 年 9 月 19 日
2. 事業の実施成果（要約）：

(1)事業概要

障害者の自助組織である障害者連盟へ農機具機材を供与することによって、障害者家庭での一過性ではない継続的な食糧確保を目指した。

(2)事業の成果と達成度

ジルカダル郡、タジカバード郡障害者連盟へそれぞれトラクター、種いも植え付け機、農地耕作機を供与し、両障害者連盟が実施する障害者家庭への食料配布事業を支援した。本事業にて供与した農機具を活用して両障害者連盟が収穫した作物のうち、ジルカダル郡障害者連盟は 50 人の障害者家庭へ、タジカバード郡障害者連盟は 20 人の障害者家庭へ配布する予定。今年の収穫の中から約 13 トンを来年度の種子として保存、本事業で供与した農機具機材を活用し、来年以降も継続的な食糧生産、供給を実施する仕組みができた。

(3) 事業の自己評価

ア. 妥当性

タジキスタンでは食糧の確保が国家優先課題の一つとして位置づけられている。本事業では、食糧そのものではなく農機具機材を供与したことで、継続的な食糧確保の仕組みができた。以上から妥当性があったと判断できる。

イ. 効率性

タジキスタンへの移送の際の事故や手違い等によって一部農機具の到着に時間がかかったものの、効率的な事業運営を行ったため事業期間延長を 2 ヶ月に収められた。また、地域の障害者や障害者の家族を農地の維持管理に起用したことで、現地の生活環境に根ざした効率的な事業の実施につながった。

ウ. 有効性

両郡合わせ約 70 世帯に対し、相当量のジャガイモを支援できる道筋が付けられたことで、有効性があったと判断できる。一方、植え付けに使うために仕入れた種いもの品質が悪かったこと、両障害者連盟の財政的問題などから植え付け時期が遅れたこと、さらに土砂災害により農地が影響を受けたため、当初計画した収穫量には届かず、予定していた裨益者全てへ食糧を配布することはできなかった。だが、収穫物の一部を来年度の植え付けに利用する種いもとして保存することで、来年以降の食糧確保につなげられた。

エ. インパクト

障害者、及び障害者家庭が収穫されたジャガイモを受け取る予定で農地の維持管理に参加しており、障害者家庭への就労機会の創出だけでなく、障害者の社会参加の促進にも貢献できた。

オ. 自立発展性

両障害者連盟によると、両地域に新型のトラクターが導入されたのは約 10 年ぶり。新型の導入が地域に与える影響は大きく、農家などに貸し出すことで、障害者連盟に安定した収入がもたらされると期待される。さらに、両郡は地元行政からそれぞれ農地を無償で貸与されており、今後の障害者向け食糧生産に向けた素地が整えられた。

(4) 今後の方針

両障害者連盟は 10 月末以降、障害者家庭への食糧配布を予定しており、当会は配布方法や裨益者等についてアドバイスしてきた。引き続き、配布が終了するまで継続して支援・調査をするとともに、本事業で収穫したジャガイモを種いもとして活用し植え付けを実施するまでの間、適宜アドバイスしていく。

3. 日本NGO支援無償資金精算額：55,618 米ドル

4. 会計報告：別紙の通り

5. 外部監査報告書提出予定日：平成 18 年 11 月 30 日

【添付書類】

- ① 会計報告関係：事業資金収支表、資金使用明細書、支払い証拠書写し綴り
- ② 事業の成果（詳細報告書）
- ③ 事業内容説明写真

添付 2：事業の成果（詳細報告書）

1. 案件名：ジルガタル郡・タジカバード郡障害者連盟強化支援プロジェクト
2. 実施地：タジキスタン共和国 ラシュト地域ジルガタル郡・タジカバード郡
3. 事業成果：各項目につき、以下の通りまとめる

(ア) 妥当性：食糧そのものでなく農機具機材を供与したことで、持続的な食糧確保の仕組みを構築できた。また、障害者連盟本部が経済状況などを理由に当初の計画通りジャガイモや小麦の種を準備できず、当会が日本国内で資金を集め、現地で購入、供与した。来年以降利用する種については、本事業で収穫したジャガイモや小麦の一部を保存して活用する予定であり、持続的な事業運営が期待できる。以上から、妥当性があったと判断できる。

(イ) 効率性：不慮の事故からトラクターなどの到着が予定より遅れていたが、種いもの調達など新たな課題があった中、期間延長を 2 ヶ月に抑えられた。一方、農業機械一式の供与という比較的高いコストの高い事業を単年で判断するのは難しく、その効果を見極めるには 5 年、10 年という長い期間が必要になる。

(ウ) 有効性：種いもの品質が悪かったこと、植えつけ時期が遅れたこと、土砂災害などが影響し、今年は計画していた受益者数に達しないことが判明している。しかし、両郡あわせて約 70 世帯に食糧支援ができる見通しであり、有効性があったと判断できる。また両障害者連盟では、今年の収穫の一部を来年用の種として保管する計画であり、今後も農業生産を続け、将来より多くの障害者に食糧を提供することができるかと期待できる。

(エ) インパクト：今年はジルガタル郡が 6 家族、タジカバード郡も 3 家族の障害者家庭が農地の維持管理に従事しており、彼らには一定の収穫物が渡される予定である。彼らへの経済的支援となったばかりでなく、責任のある仕事を請け負ってもらうことで社会参加を促進することにも寄与したと考えられる。

(オ) 自立発展性：両障害者連盟によると、本事業で供与したトラクターは両郡に約 10 年ぶりに導入された新型のトラクターである。地元を与える影響は大きく、使用を希望する農家や農業組合も多い。障害者連盟が同トラクターを有料で貸し出すことにより、農機具機材の維持費捻出のみならず、自己資金に乏しい両連盟の運営を助けられる。さらには、両連盟が障害者への食糧支援だけでなく、農業機械の維持管理を適切に行うことで両連盟の運営能力を高め、多岐に渡る障害者支援が可能となると期待できる。

また両障害者連盟は今回供与を受けた農業機械一式のほか、地元行政からそれぞれ 5 ヘクタール以上の農地を無償貸与されており、今後も引き続き障害者支援

のための食糧生産の継続が可能となっている。

4. 事業の流れ

(ア) 農機具機材供与

- ① 供与機材の変更：両障害者連盟との合意に基づき、それぞれにベラルーシ製トラクター（MTZ-82）1台、ロシア製種いも植え付け機（L-202）1台、ロシア製土地耕作機（PLN-3.35）1台を供与する計画を立てた。

本事業の契約締結後、見積もりを出していた業者と購入契約手続きを行ったが、燃料費の高騰に伴う輸送費の値上げなどから、同業者は当初より2割高い価格での購入を求めてきた。供与後の維持管理や傾斜地に農地を持つ両障害者連盟の状況を考慮し、それらの状況に最も合っていると判断できる同機種を購入を引き続き目指した。タジキスタン国内のほかの農機具機材取扱い業者と接触した結果、当初の見積もりと同程度の価格を示した別の業者と3月30日に購入契約を締結した。だが、種いも植え付け機だけは価格上昇から当初通りの機種が購入できず、L-201型（L-202型の四条植えに対し2条植え）を購入することにした。

- ② 機材の到着：いずれの農機具も予定通り、ベラルーシとロシアから調達した。しかし経由地であるカザフスタン領内で列車事故が発生。契約を結んだ輸入業者と仕入元のロシアの業者が現地へ赴き、対処したものの到着が大幅に遅れた。

トラクターと農地耕作機は6月6日までにドゥシャンベに到着。当会側が用意した運転手が同月8日、それらをトラックに積み込み、翌日、両障害者連盟へ引き渡した。一方、種いも植え付け機はトラクターや農地耕作機とは別の貨車で運ばれたため、更に到着が遅れた。業者と話し合った結果、同業者の負担で種いも植え付け機を両郡まで輸送、引き渡しすることとした。同業者は6月22日、種いも植え付け機を両連盟へ引き渡した。

(イ) 種いも調達と植えつけ

- ① 調達：両障害者連盟長は5月4日、ジャガイモと小麦の種が計画通りドゥシャンベの障害者連盟本部から調達できない可能性が出てきたと当会に報告。同連盟本部へ種の提供を引き続き働きかけるとともに、農業支援を行う各NGOや地元行政にも提供を要請するように助言。また地元農家から種を借り受け、収穫後に利子を付け返済する方式を両連盟へ提案した。

しかし、両連盟とも種を入手することができなかった（ジルガタル郡障害者連盟が確保していた小麦の種800キロ除く）。このままでは、植えつけに適した時期過ぎてしまう恐れがあったため、当会が種を入手することにした。当会は6月10日、タジカバード郡で10トンを購入、両連盟にそれぞれ5トンずつ供与した。同月29日までに、ジルガタル郡障害者連盟向けに4.3トン、タジカバード郡向けに計2.7トンをそれぞれ追加購入した。

併せて、6ヘクタール分の農薬5種（硝石1200キロ、リン酸1200キロ、尿素1000キロ、カリウム650キロ、殺虫剤2リットル）も購入、トラクター燃料計690リットルも同月14日までに購入し、それぞれの連盟に供与。さらに種いも植えつけ機の搬入がジャガイモの植えつけに間に合わなかったため、当会が費用を負担し、近隣の農家から借りて対処した。

① 植えつけ：両障害者連盟の播種の状況は以下の通り。

ジルガタル郡

農地番号	品種	面積	植え付け量	植え付け時期	植え付け場所
1	小麦	2ha	800kg	4月22日、23日	地元行政貸与
2	ジャガイモ	1.2ha（3カ所に分散）	4300kg	5月25日	同上
3	ジャガイモ	1.1ha	3300kg	6月15日、18日	同上

タジカバード郡

農地番号	品種	面積	植え付け量	植え付け時期	植え付け場所
1	ジャガイモ	1.35ha	3850kg	6月12日	地元行政貸与
2	ジャガイモ	0.28ha	420kg	6月15日	地元住民貸与
3	ジャガイモ	0.37ha	720kg	6月12日	同上
4	ジャガイモ	0.25ha	820kg	5月15日、16日	同上

両郡とも、品質が悪く植え付けには適さない種いもを取り除いたため、購入量と播種量に違いがある。

ジルガタル郡の5月25日植えつけ分は、地元住民が同連盟の許可を得て、同連盟が地元行政から借りている土地に既に植え付けていたものを植え付けた状態で購入したもの。タジカバード郡の5月15、16日購入分も事前に植えてあったジャガイモを購入した。同郡では連盟職員1人、同連盟に登録されている障害者とその家族6世帯、連盟から依頼を受けた健常者4人が植えつけを実施した。

タジカバード郡障害者連盟は地元行政より、ラシュト溪谷を流れるソルホーブ川近くの標高の低い農地、郡中心部より南側の標高2,000メートル以上の農地をそれぞれ借りている。現地では標高が高い方が冷涼で収穫が多く見込めるとされている。しかし、同連盟による植え付けが遅れたため、地元行政が標高の高い方の農地の使用を他組織へ認めたことが判明。そのため、タ

ジカバード郡障害者連盟は、比較的高い標高に位置する個人の土地を借りることとした。同郡では連盟職員 3 人、同連盟に登録されている障害者 6 人、連盟から依頼を受けた健常者 4 人が植えつけに参加した。

- ② 維持管理とプロジェクト終了時の生育状況：ジルガタル郡障害者連盟が行政より借りている農地はキルギス国境に向かったラフシュ地区にある。郡中心部から車で約 1 時間かかる位置にあるため、通常の維持管理は農地近くに住む農家（健常者 4 人）に任せている。これらの農家は週 1 回の灌漑のほか、定期的な除草、また農薬散布など通常の維持管理を担っている。手当として、収穫したジャガイモのうち 1 人あたり 250 キロを障害者連盟から支給する予定である。

9 月中旬、小麦と既に植え付けが終了してある状態で購入したジャガイモは順調に生育しており、ジャガイモは丈が 30-40 センチ以上に伸び、現地での例年並みの生育という。一方、当会がタジカバード郡で一括購入し、分配したジャガイモは購入時に高温による傷みがあったことなどから、発芽したのは全体の 2-3 割程度にとどまり、生育状況も遅れがちである。

タジカバード郡障害者連盟は農地番号 1 について、近くに住む健常者 3 人、障害者 6 人に維持管理を任せている。また、農地番号 2 から 4 については、健常者であるそれぞれの土地所有者が維持管理の責任を負う。同連盟職員 3 人は、全ての農地を包括的に管理しており、必要とあれば障害者や土地所有者らと一緒に維持管理に関する作業をしている。

1 にのみ、維持管理に当たった 9 人に計 1 トン（一人あたり約 110 キロ）のジャガイモを支給。2 から 4 については、同連盟の畑全体では不作だったため、土地所有者同意の上、地代の支払いやジャガイモの支給などは行わない予定。

それぞれの農地の生育状況は、9 月上旬時点で 2 と 4 がそれぞれジャガイモの背丈が 50 センチ以上に伸びている。1 は当会が 6 月 10 日に購入した種いもを植えたものの、ジルガタル郡と同様の理由で植えつけたうち 3 割程度しか発芽しておらず、生育も遅れがち。3 は初夏に起きた豪雨災害で土砂が流入。同連盟によると、1 よりも悪い生育にあるという。

- ③ 収穫予想と配布方法：両連盟の収穫予想は以下の通り。

ジルガタル郡

品種	収量予測	障害者向け配布量	来年向け保存量	協力者向け配布量	障害者連盟スタッフ手当分
小麦	3t	0t	3t	0t	0t
ジャガイモ	20t	10t	8t	1t	1t

タジカバード郡

品種	収量予測	障害者向け配布量	来年向け保存量	協力者向け配布量	障害者連盟スタッフ手当分
ジャガイモ	5t	1t	2t	1t	1t

両障害者連盟とも、畑の維持管理に当たった農家に1トン、連盟本部から十分な手当を受けていないスタッフ向けの手当に1トンを見込んでいる。トラクターの燃料費や修理費、運転手の賃金などには、一般の農家や農業組合などへのトラクターなどのレンタル料を充てる計画。

ジルガタル郡は小麦を9月15-18日、ジャガイモを10月6-8日に収穫予定。タジカバード郡は10月6-8日にジャガイモを収穫する方向で準備を進めている。

ジルガタル郡障害者連盟は登録されている全ての障害者に配布するには小麦とジャガイモとも十分でないため、50人に絞って配布。選出は9月15-20日に行い、独自の情報に加え同郡行政や各地域（Jamoat）役場などからも情報を集め、最終的に障害者と面談、障害の程度や生活状況、労働や生活への意欲を基準に、障害者1級、及び2級の16-60歳を選んだ。10月19-23日、郡内の各地域の指定された場所まで障害者もしくはその家族に来てもらい、配布する。障害者に配布するには十分でないとの判断から、小麦は全量来年向けに保存する。

タジカバード郡障害者連盟も同様の理由から、対象を第1級、2級に登録されている8-70歳の20人に絞る。障害の程度や生活状況、生活への意欲などを基準に9月10-29日に選考。10月19-23日、各地域の指定された場所に障害者もしくはその家族に来てもらい配布する予定。

5. 今後の展望

難民を助ける会は実際の収穫量や配布方法、各障害者が受け取ったジャガイモの量についても調査する。両障害者連盟とも自立的運営に向けた財政面、事業管理能力などは未だ多くの課題を残しており、追跡調査に併せ適切に助言、指導が必要と考えられる。当会は今後も両障害者連盟への組織整備、強化支援を続けていく。

以 上